

平成 2 2 年度の学校評価について

1 学校目標と重点施策

〔学校目標〕

「礼儀正しい子」の育成を図る。

〔重点施策〕

白銀南スタンダード（「礼儀正しい子」の観点）を設定し、同一步調で指導を行う。
 道徳・学級活動の授業を積極的に公開し、子どもの変容を確認し合う。
 短学活を活用し、全学級同一内容の学級づくりや道徳教育を推進する。
 言語活動（話すこと・聞くこと、書くこと）の充実を図る。
 家庭・地域と連携し「あいさつ運動」を中心とした「礼儀正しい子」の推進を図る。

2 自己評価、学校関係者評価の実施・公表状況について

今年度は、学校目標を「『礼儀正しい子』の育成を図る。」と定めて取り組みました。

「礼儀正しい子」を具体化した児童の行動目標である「白銀南スタンダード」を策定し、13項目の具体目標を設定し、年3回、教師と児童による評価を行いました。また、学期末には、教師に対して重点施策毎の取り組み状況や達成状況について調査しました。

学校関係者評価委員は5名に委嘱し、年4回の参観日と学校行事（入学式、運動会、子ども祭り、道徳教育実践研究事業公開発表会、卒業式）に来校してもらい、意見を伺いました。また、1月25日には、学校教育活動の取組状況等を説明し、総括的な評価とご意見を伺いました。

3 自己評価、学校関係者評価の結果

項目	自己評価		学校関係者評価
		児童・保護者アンケート	
白銀南スタンダード（「礼儀正しい子」の観点）を設定し、同一步調で指導を行う。	アンケート結果によると、全ての項目で評価が上がっています。特に、「あいさつ」に関する項目は大きく向上しました。具体的な目標を設定し、同一步調で指導したことが改善につながったと思われます。	〔児童のアンケートから〕 ほとんどの項目で向上がみられました。特に、「あいさつ」の項目は大きく向上しています。また、対人関係に関する項目も向上しています。 〔保護者のアンケートから〕 「姿勢」以外の項目で数値が向上しています。	〔評価委員の主な意見〕 「礼儀正しい子」に向けて「白銀南スタンダード」を作成し、短学活などで全職員で指導したことが、教職員、児童に浸透し、日々の授業に生かされたと考えます。「礼儀」という点から考えると、「姿勢」が今後の課題ではないでしょうか。
道徳・学級活動の授業を積極的に公開し、子どもの変容を確認し合う。	学級活動(1)については、司会などの役割や話し合いの仕方に慣れ、積極的に話し合いが出来るようになりました。 学級活動(2)については、課題把握、原因の追求、解決策の話し合い、自己決定が出来るようになりました。	〔授業後の保護者アンケート〕 「今日の授業は『礼儀正しい子』へ向けて大切だと思いますか。」という設問に対して94%の保護者が「そう思う」と答えています。また、82%の保護者が「児童は進んで学習に取り組んでいる。」と答えています。徳育の大切さが伝わったと思います。	〔評価委員の主な意見〕 公開発表会では、子どもたちが積極的な話し合いができたようです。 児童の実態に合わせて、6つの重点項目を決めて指導したことがよかったと思います。

<p>短学活を活用し、全学級同一内容の学級づくりや道徳教育を行う。</p>	<p>特別活動主任が、短学活で指導する内容や手法を資料として配付し、効率的に指導が行われました。児童の行動にもよい変容が見られ、教師側の手応えも大きいものがありました。</p>	<p>集団決定のための話し合いの進め方を丁寧に教えることができ、子どもが話し合いの仕方に慣れてきました。 個人決定のための思考パターンを子どもたちに指導した結果、問題解決の力や実践する力が身につけてきました。</p>	<p>〔評価委員の主な意見〕 公開発表会で子どもたち、教師の様子を見ていると、短学活が有効であったと思います。</p>
<p>言語活動（話すこと・聞くこと、書くこと）の充実を図る。</p>	<p>「話す・聞く」に関しては、公開授業もあり、子どもたちは力をつけたと思います。 「自分の意見を明確にする」「相手に伝える」などを意識して指導でき、挙手する児童も増えてきています。</p>	<p>繰り返しの指導により、書くことが好きになり、文章の量や質に高まりが見られました。 学級活動の話し合いの仕方や解決までの流れに慣れ、実践力が身につけてきました。</p>	<p>〔評価委員の主な意見〕 「話す・聞く」という活動は、相手のある活動であり、大事に育てていきたい資質です。その意味で、「話す・聞く」態度の育成を取り上げて指導してくれていることは、うれしいことです。</p>
<p>家庭・地域と連携し、「あいさつ運動」を中心とした「礼儀正しい子」の推進を図る。</p>	<p>参観日や学校通信及びすこやかみなみネット情報交換会で説明し、理解・協力を求めました。学校・保護者・地域の協力により、家庭や地域において「礼儀正しい子」を意識して行動する子どもが増えてきました。</p>	<p>保護者及び児童アンケートの「あいさつ」の項目では、大きな向上を見せ、成果が上がったと思います。 児童が地域の方々へ贈った「感謝の手紙」は、好評でした。学校と地域の連携に役立ちました。</p>	<p>〔評価委員の主な意見〕 すこやかみなみネット情報交換会で、子どもたちのあいさつがよくなってきているという意見が複数出されました。成果が出ているようです。学区に住む者としてうれしいことです。</p>

4 学校目標に係る成果、課題及び改善方法 (成果)

望ましい児童の姿として策定した「白銀南スタンダード」は、全教職員が同じ視点で指導できたという点で成果を上げました。また、指導する時間として「短学活」を設定したことも大変効果的でした。項目中「場にあったあいさつをする」「進んであいさつする」「話の聞き方・話し方」等は大きく向上しました。また、教師側の手応えも大きく、学校ぐるみで指導した成果を感じています。

(課題及び改善方法)

「白銀南スタンダード」を一部見直し、継続して指導することが重要であると考えます。特に、「姿勢」「廊下歩行」については、指導方法の改善も考えていきたいと思えます。また、家庭・地域に向けてさらなる協力をお願いしていく必要性を感じます。そのための家庭・地域への情報発信を強化していきたいと思えます。

言語活動の充実については、自己評価の中に、国語や特別活動では意識したが、他の教科ではどこまで達成できたかは不明であるという意見がありました。より明確な望ましい児童像を設定し、全校で取り組んでいくことが大切であると考えます。また、実生活で活かせる表現力や思考力を身につけさせたいという意見も出ています。この課題については、校内研修で取り上げていきたいと思えます。